



社会福祉法人 聖隷福祉事業団
医療保護施設・地域医療支援病院

総合病院 聖隷三方原病院

SEIREI MIKATAHARA GENERAL HOSPITAL

おおぞら

第221号

2025年1月1日発行

発行責任者 山本 貴道

編集者 木部 哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

「療育神経科」の新設

おおぞら所長 木部 哲也

聖隷おおぞら療育センター（以下おおぞら）は、総合病院と連携した医療機能と専門性の高い多職種スタッフによって、これまで地域の要望に応えられるよう提供できる支援を増やしてきました。その中で、様々な課題に直面しています。利用者の高齢化、成人移行医療、高度化・複雑化する在宅支援、医療安全、担い手不足などです。このような医療課題に対応するため施設での生活を支える専任診療科として「療育神経科」が新設されましたので報告します。

おおぞら入所者の最近の動向を見ますと、2020年以降の新規入所は13名で、内訳は10歳未満1名、10歳台3名、30歳台5名、40歳台4名で、約6割は35歳以上でした。現在、入所者119名の年齢分布は10歳未満2名、10歳台19名、20歳台12名、30歳台19名、40歳台29名、50歳台11名、60歳台17名、70歳台10名で

す。10歳台、40歳台、60歳台にピークがあり、割合では、40歳以上が56%（67名）、65歳以上が21%（25名）でした。

それぞれの年代別の医療的ケアや医療についての特徴、課題と取り組みを述べます。0～10歳台は、医療的ケアにおける医療度が高い故に家庭介護困難となった方達です。小児在宅支援体制の充実により、入所のニーズは減少傾向にあるようです。その一方、医療度が高い故に他施設では受けられないショートステイ・レスパイト入院への対応が課題です。

20～30歳台では、体格の変化、家族の介護ケア能力・体力、世代交代の時期も重なり、新たな医療ケアの開始が増えることとされています。重症心身障害の領域では制度上18歳で「児」と「若」が分かれます。この時期は特に、医療的にも福祉的にも行き場がないとされ、移行医療は地域連携のあり方

の中心的な課題です。

40歳を過ぎると、がんや糖尿病など成人特有の医療が新たに加わります。2006年10月におおぞらは聖隷三方原病院に事業が移管されましたが、この頃から、病院での診療は40歳までは小児科、それ以後は成人科が担当すると決められました。病院との連携を活かし、在宅人工呼吸管理などの高度な医療的ケアを行っている方達を多く受け入れてきました。入所者の人工呼吸器管理の割合を年齢別に見ると、30歳未満では約62%、30歳台の約47%、40歳台で11%となっています。約20年を経て人工呼吸器を要する方達が、40歳を超えつつある状況です。病院での移行医療は容易なことではありませんが、遂行していかねければなりません。

65歳以上の入所者の多くは所謂「動く重症者」の方達です。利用者の高齢化とそれに伴う疾患の治療、合併症などの問題から、関わる成人診療科も多岐に渡ります。ご家族も高齢化し、今後の医療選択における代理意思決定者が不在となる懸念があります。「いざという時」について十分話し

えるよう、状態が落ち着いている時に、定期的な面談を持つよう取組んでいます。

移行医療の問題は、当事者からは「関係性の変化への不安」、「総合的な診療を希望する」、「先々まで考えて行動する余裕などない」などの声があり、小児担当医師自身も「先々まで考えて診療を行えない」など先延ばしされてきた問題とも言えます。その一方、「年齢によって変わる利用可能資源」、「制度、疾患の変化」、「緩和的医療との接点」、「成人科の経験不足」、「移行医療コーディネータ不在」、「高度で複雑な医療的ケアへの対応」、など小児科的視点や枠組だけでは解決できません。様々な課題に柔軟に対応できるように、今後、療育神経科では成人科医師の参加や緩和ケアチームとの連携などチーム医療を実践したいと考えています。



すばるの 日常生活紹介

保賀 陽子

日中Aさんは周囲の声や音、人の動き等を感じられるようリビングで過ごしています。マットで横になっています。Aさんに後ろから近づいていき、職員が視界に入るくらいの距離まで来ると職員が存在に気付き後方を意識しながら視線を動かします。そのままAさんの正面にいき声をかけるとハッとしたような表情で目を大きくさせたり、小さく口を動かしています。Aさんは動いている物に視線が向くことが多く、特に職員の動きをよく見ているように感じます。少し離れた場所にいる職員を追視したり、側で他利用者の活動をしていると視線を向けていることもあります。移乗介助の際には動きや振動などを感知表情を緩ませています。

〇〇にもいない」と伸びる音と言いつける音が組み合わさったフレーズが何度も繰り返されていくと顔を上げたり職員の方に視線を向けます。あかたろうとお母さんが会話する場面では「にんじん1ぽん」「まあ、そうよ」「たまねぎ2つ」「あら、ほんとよ」という短いフレーズがテンポよく続くやりとりに注目していました。『おむすびころりん』では「おむすびころりんすつとんとん」「ねこがこなけりやねずみの…」と歌うようなフレーズで視線が強くなったり、「おむすびやーい まってくれー」「たすけてくれー」等、語尾が伸びるフレーズで目を大きくさせていました。

歌の活動ではゆったりとした曲調の歌いかけを行いました。『野に咲く花のように』では、歌い始めに瞬きをしたり身体に力が入っていることもありましたが、歌っていくうちに表情が和らいできます。「そんなふうには僕たちも…」の部分からはゆっくり口を動かしたり目を大きくさせながら聴いていました。『未来へ』は歌



い出しから穏やかな表情で聴いています。「その優しさを…」の部分になると視線が強くなり、音の高さや調子の変化を感じているようでした。

以前、仕掛け絵本の活動を行った際に立体的な物が音を立てて現われることに注目していたことから傘袋に空気を入れていく活動を行いました。傘袋を空気入れてゆっくりに視線を向けます。空気を入れる際の音と共にくしゃくしゃだった傘袋が徐々に形になっていくと目を大きくさせています。傘袋に空気が一杯になり高さが出ると視線も強くなり、特に大きな動きのある先端への注目が高いようでした。

おおぞら クリスマス会

酒井 美香

令和6年12月16日の「おおぞらクリスマス会」は、4年ぶりにホールを活用しておおぞら全体で行われる催し物となりました。ボランティアさんと職員による三線の演奏、ボランティアさんと職員による少林寺の型の披露、利用者や職員による合唱、職員によるトーンチャイムの演奏とペープサートによる劇など、バラエティに富んだ内容のプログラムでした。大々的に行われるクリスマス会に向けて、数ヶ月前の準備の段階から活動や余暇の時間を使って、利用者と一緒にクリスマスカラーの花輪づくりや合唱の練習を行ってきました。当日の会場は、2メートルほどもあるクリスマスツリーをはじめ、色とりどりの風船や電飾などの装飾で飾られました。オーピングで、鈴の音と軽快な音楽に乗ってサンタクロースとトナカイが登場すると、大きな歓声があがっていました。出し物は歌あり踊りありのにぎやかなクリスマス会となり、ステージ前では、利用者も音楽に合わせて歌ったり踊ったりして楽しまれていました。多くの方に楽しんでいただけるように、会場に來れない利用者にはサンタクロースとトナカイが各部屋をまわり一緒に写真を撮ったり、合唱やトーンチャイムをベッドサイドで披露したりすると、ベッドにいないながらも、音楽に合わせて手を動かしたり目を大きく開いたり、普段見られない表情や仕草がたくさん見られました。

今後、ご家族や近隣住民の方も一緒に楽しめるような企画ができればと考えます。





ひかりの子運動会

10月9日に、運動会を行いました。午後にはお天気にもなり、絶好の運動会日和となりました。ひかりの子の12名全員、保護者のみなさんも多数参加してくださって、盛大な、楽しい会になりました。ひかりの子のこどもたち、ひとりひとり、元気に精一杯がんばっている姿がとてもまぶしかった一日でした。



リレー
コロ付きカートに乗って会場を往復し、次の子にバトンを繋いでいきました。会場から拍手や「ガンバレ」の声援の中、笑顔で走り抜けました。



ダンス「エビカニクス♪」
ノリノリの曲に合わせて、エビとカニに扮した職員が登場！
体を大きく動かし、みんなでおどって盛り上がりました。



リハビリ職員による準備体操
「ぼよん行進曲♪」に合わせて、みんなが“ぼよよ～ん”と高く飛び上がりました！



風船玉入れ
紅組と青組で勝敗を競い、子どもの部と大人の部を行いました。大人の部で、おうちの人達が夢中になって投げ入れる風船の動きを、子どもたちは透明シートの下から見楽しみました。



アスレチック走
スズランテープのカーテンをくぐって、ボールスライダーを滑り、お花の風船を引っ張り、とってゴール！！親子の微笑ましい姿に、会場が笑顔で溢れました。



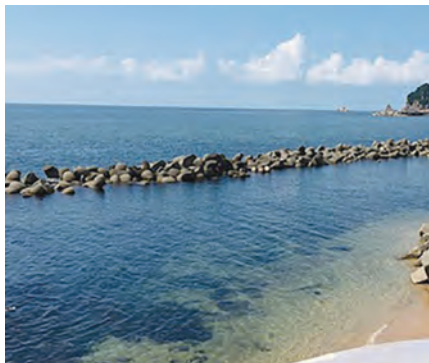
リレーエッセイ

車内での会話

村松 妃奈子

私は、どこまでもいつまでも、目的地があってもなくても運転することが大好きです。

仕事帰りは、やり残したことはないか、どんな一日だったかを振り返りながら、たまにはいつもと違う道で遠回りをしているのかなことを考えながら帰りまします。子どもたちとは学校のことや興味があること、推しのこと、進路についてなどたくさん聴くことができ、送迎の短時間ですが楽しい時間が過ごせます。そして同職種の夫とは仕事についてよく話します。仕事に対する考え方や家以上に真面目に話してくれるので聴いているのがとても楽しいです。移動中の方



が子育てや自分たちの将来、キャリアアップなど前向きな会話が延々と続く気がします。私にとっては、一人でも、誰かとも、車内での会話がとても有意義な時間です。この冬も車道中どんな時間になるのか楽しみです。

会話とは、明確な目的やゴールがなく、お互いの意見や感情を共有する日常的なコミュニケーションであり、対話はお互いの立場や意見の違いを理解し、そのズレを擦り合わせることを目的に行います。職場では「対話」の場面も多くありますが、とりとめもなく自由に会話することで相手の考えなどを知ることができるので、職場でも「会話」を大切にしていきたいと思っています。

おおぞら食事紹介

「お正月の献立」

毎年元旦には、皆さんに新年の喜びを感じて美味しく楽しく食べて頂けるようにとお正月料理を提供しています。



普通食



キザミ食



ペースト食

お正月の献立を紹介します。この日は「主食(米飯・お粥・ペースト粥)、和風ミートローフ、含め煮、紅白なます、水ようかん」での提供でした。食べる力、飲み込む力に応じて「普通食・キザミ食・ペースト食」に分け、個々に合った食事形態で提供させて頂いています。これからも喜んでお食事を召し上げて頂けるよう努力していきたいと考えています。

栄養課 管理栄養士：原・白井・渡瀬



苦情解決委員会

2024年7月～2024年9月
期間中公表を希望される苦情は
ありませんでした。
(期間中受付した苦情0件でした)

	8月	9月	10月
ショートステイ 利用者数 (延べ利用日数)	46人(242日)	53人(242日)	48人(233日)
放課後デイ 利用者数 (延べ利用日数)	22人(114日)	18人(84日)	19人(93日)
実習者数 (グループ数)	4人(2グループ)	1人(1グループ)	0人(0グループ)

